

子どもの育ち・子どもの目線で見よう

【プログラムのねらい】

子どもの成長は、子どもが身の回りの世界に抱く興味・関心が原動力になっています。日々の生活の中では大人の予想を超えることもします。そこで、大人自身が子どもの目線を体験してみることで、子どもが見る世界の面白さを実感するとともに、危険に気づき、成長を支える大人の存在の重要性について学習します。

【プログラムの展開例】（時間：60分程度）

	○進め方 ○ことばかけ	留 意 点
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介をします。 ○プログラムのねらいや学習の進め方について説明します。 ○自己紹介やゲームをして緊張を和らげたり、明るく活動的な雰囲気づくりをします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○明るく元気な話し方を心がけます。 ○プログラムのねらいと体験活動しながら主体的に学ぶことのできる参加型のプログラムであることを伝えます。 ○参加者全員に気を配り、ゲームに参加できていない人や戸惑っている人には、声かけをして、参加を促します。 ○1グループ4人か6人とします。この後のロールプレイのために、なるべく偶数人数の編成にします。
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ◎「ワーク1」の「子どもの成長と事故」の図をみて、気付いたことをメモ欄に記入しましょう。 ◎いろいろな危険が起こるのですね。子どもの目の高さで見る世界と大人の目の高さで見る世界はずいぶん違うようですね。 ◎「ワーク2」では、実際に子ども役と大人役の両方を体験してみましょ。ペアになってください。 ◎まずは全員1歳児の身長75cmになってみましょう。腰を落としてその高さから周囲を見ましょ。 ◎次に大人役の方が立って、大人の身長になってください。 	<ul style="list-style-type: none"> ○気付いたこと、小さなこと何でも書いてみるように話します。 ○見たものに手を出す、口にもものを入れる、ソファから転落する、子どものイタズラから起こるものなど、大人の予想を超えた事故が起こることを確認します。 ○子どもの目の高さで考える重要性を確認します。 ○75センチの世界を実感します。1歳児の75cmの高さで、大人を見上げるとより実感できます。 ○大人役と子ども役を適宜交代して両方が体験できるようにします。

	<p>◎ロールプレイで何か気付いたことはありますか？「ふりかえり」に書いてみましょう。</p> <p>◎メモをもとにペアで意見交換してみましょう。</p>	<p>○大人の目線と子どもの目線ではかなり違うことを実感としてとらえさせるようにします。</p> <p>○ペアで意見交換をするように促します。</p> <p>○会場を回り、意見交換の様子や出されている意見の内容について把握しておきます。</p> <p>○子どもの立場に立って生活環境を見直すことや、子どもの行動を予測することの必要性を確認します。その際、時間があれば、プログラム集P36、37の資料を参考にします。</p>
まとめ 10分	<p>◎今日の学習のまとめをしましょう。</p> <p>○参加者一人一人に今日の学習を通して考えたことや感想を書いてもらいます。</p> <p>○発表してもらいます。</p>	<p>○今日の学習を振り返り、特に印象に残ったことを中心に書くように話します。</p> <p>○あらかじめ数人の方に感想を発表してもらうようお願いしておきます。</p> <p>○感想を共感的に受け止め、発表に対して手短かにコメントします。</p> <p>○子どもの目線を体験してもらうねらいは、子どもの立場で物事を考えてみましょうということ。今日の体験から、気付いたことや感じたことを子育てや子どもとの生活に生かしてほしいことを話しまとめます。</p>

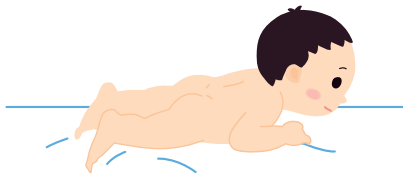
※ 設定時間が短い場合には、ワーク2を中心に流れを考えるようにします。



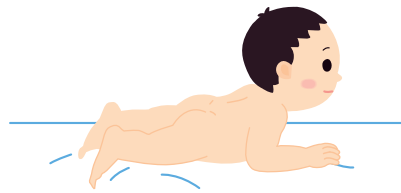
資料 1

子どもの身長が変化していくことだけでなく、子どもの姿勢も発達し、ヴァリエーションがでてくる。子どもの目線が変わることについて考えましょう。

1ヵ月：あごをあげる



2ヵ月：ひじを立てる



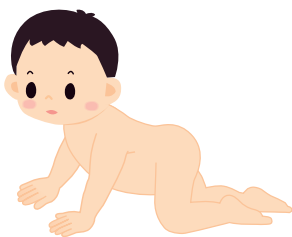
4ヵ月：支えられて座る



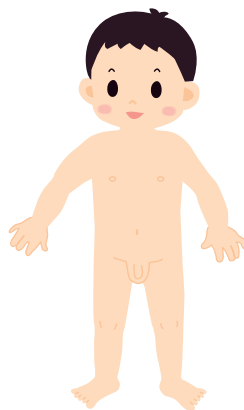
7ヵ月：ひとりで座る



8～10ヵ月：はいはいする



15ヵ月：ひとりで歩く



10ヵ月：家具につかまって立ちあがる

(南山堂『新保育学』から)

運動発達とともに、姿勢が変化し、結果的に子どもの目の高さが変化していき、見ている世界が変わることを確認します。

但し、子どもの運動発達の時期は、個人差があります。時期を問うのではなく、姿勢が変化することによって、目線が変化し、身の回りの世界が変わり、広がっていくということを強調します。

資料 2

不慮の事故が子どもの死亡原因の1つにあること、また、防げる事故もあること、大人が目を離れたときに発生することもあることを強調します。

表6-1 死因順位・死亡数・死亡率（人口10万対）、性年齢階級別・総数（2005年）

年 齢	第1位			第2位			第3位		
	死 因	死亡数 (死亡率)		死 因	死亡数 (死亡率)		死 因	死亡数 (死亡率)	
	男 子 女 子	総 数		男 子 女 子	総 数		男 子 女 子	総 数	
0	先天奇形等	539 (98.9)	1024 (96.4)	呼吸障害等	226 (41.5)	413 (38.9)	乳幼児突然死 症候群	109 (20.0)	176 (16.6)
	先天奇形等	485 (93.7)		呼吸障害等	187 (36.1)		不慮の事故	72 (13.9)	
1~4	不慮の事故	140 (6.0)	236 (5.2)	先天奇形等	100 (4.3)	183 (4.1)	悪性新生物	55 (2.4)	100 (2.2)
	不慮の事故	96 (4.4)		先天奇形等	83 (3.8)		悪性新生物	45 (2.0)	
5~9	不慮の事故	165 (5.5)	230 (3.9)	悪性新生物	77 (2.6)	120 (2.1)	先天奇形等	19 (0.6)	44 (0.8)
	不慮の事故	65 (2.3)		悪性新生物	43 (1.5)		先天奇形等	25 (0.9)	
10~14	不慮の事故	106 (3.5)	150 (2.5)	悪性新生物	61 (2.0)	108 (1.8)	自 殺	28 (0.9)	44 (0.7)
	悪性新生物	47 (1.6)		不慮の事故	44 (1.5)		心疾患	20 (0.7)	
15~19	不慮の事故	473 (14.2)	615 (9.5)	自 殺	321 (9.6)	510 (7.9)	悪性新生物	103 (3.1)	166 (2.6)
	自 殺	189 (6.0)		不慮の事故	142 (4.5)		悪性新生物	63 (2.0)	
20~24	自 殺	920 (24.4)	1368 (18.6)	不慮の事故	678 (18.0)	860 (11.7)	悪性新生物	163 (4.3)	283 (3.9)
	自 殺	448 (12.6)		不慮の事故	182 (5.1)		悪性新生物	120 (3.4)	

（南山堂『新保育学』から）

資料 3

発展編～ロールプレイを使って～

お母さんが子どもを叱る場面をロールプレイで体験してみましょう。

<発展編>

- ・お母さんが子どもを叱る場で…
「妹のおもちゃを黙って使い、こわしてしまった場面」

- ・子ども役の身長を変えていくと
→→子ども役はどのような気持ちの変化があるでしょうか。
お母さん役はどのような気持ちの変化があるでしょうか。

ロールプレイの実施のあとは、「ふりかえり」をし、気持ちの変化を確認します。

役割を変えることによって、立場が変わり、目線も変化し、子どもの視点で考えるきっかけとすることができます。

